

環境負荷低減に向けた 緑肥を活用した水稻栽培の取組み

京都府南丹農業改良普及センター
令和7年7月

緑肥を活用することで…

プラスチック被覆肥料の代わりになる

→ **化学肥料の施用なし**で栽培でき、特別栽培米や有機栽培として利用可能

他にも… 土壌の物理性改善
雑草抑制効果も？

普及センターでは、昨年度に引き続き
緑肥活用の普及を進めています

緑肥あと水稻栽培の流れ

(例)R6年度 京丹波町で実証

9月中旬 ハアリーベッチは種

※水稻収穫前に動力散布機では種、
細断わらが覆土代わりになる

※ハアリーベッチは湿害に弱いため
十分な**排水対策**が必要



立毛状態でハアリーベッチは種

10月～3月 ハアリーベッチ生育期

気温が高くなると急激に成長



1月 ほ場の様子

4月 ほ場の様子

4月上旬 ハアリーベッチすき込み

※**すき込み～入水を2週間あける**



ハアリーベッチすき込み

4月下旬 入水

5月上旬 田植え

※ガスわきがある場合は軽く干す



田植え後の状態

基肥、穂肥は施用していません

R6年度調査結果

ヘアリーベッチ調査結果 ※ヘアリーベッチ品種「ハングビローサ」



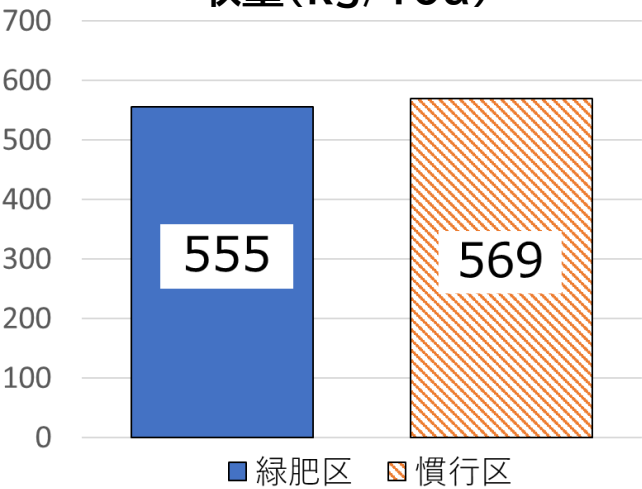
推定窒素量目安

ヘアリーベッチ 生重量(1㎡あたり)	推定窒素量 (10aあたり)
4.0～4.5kg	8～9kg
3.5～4.0kg	7～8kg
3.0～3.5kg	6～7kg
2.0～3.0kg	4～6kg
2.0kg以下	4kg以下

4/8時点 地上部生重量3.5kg/㎡ → **推定窒素量7.0kg/10a**

水稻調査結果 ※水稻品種「どんとこい」

収量(kg/10a)



粗玄米品質

	タンパク質 含有率 (%)	食味 スコア
緑肥区	6.8	70
慣行区	6.2	72

緑肥活用によって慣行区と同等の
収量・品質が確保できる！！

普及センターの取組み

水稻品種「京の輝き」で実証

「京の輝き」は倒伏に強く、窒素量を多く必要とするため、
緑肥の生育を旺盛にした後にすき込み、収量増を目指します

生産者数の多い「コシヒカリ」で調査予定

倒伏に弱い「コシヒカリ」での調査が未実施
倒伏を防ぐ栽培について、緑肥の適切なすき込み時期等を調査予定

緑肥に興味のある方は、普及センターまでご連絡ください